

個人検索プログラム

ご自身が学外で見つけた短期語学研修も、条件を満たせば助成金の支給対象となります。

対象	海外の大学や語学学校等が主催する語学の習得を目的とする研修
期間	夏休みまたは春休み期間中で、2週間以上2か月未満
滞在形態	寮またはホームステイ 単位認定 なし
留学費用	総額 各自異なる
助成金・補助金	大学からの助成金 【東アジア・東南アジア地域】 12万円（語学成績優秀者*は15万円） 【それ以外の地域】 17万円（語学成績優秀者*は25万円） 後援会助成金・同窓会補助金 3万円（語学成績優秀者*は4.5万円） <small>*出発前に定められた語学成績優秀者区分で助成金の支給決定を受けたもの</small>
説明会時期 【参加必須】	夏季プログラム：4月上旬（申請時期6月上旬） 春季プログラム：10月上旬（申請時期11月中旬）

指定旅行会社提案プログラム

大学指定の旅行会社が提案する語学研修機関での研修です。全体説明会にてプログラム一覧を配布し、別途旅行会社からの個別説明会を開催します。

期間	夏季プログラム：2~4週間（8~9月） 春季プログラム：2~4週間（2~3月）
滞在形態	寮またはホームステイ
単位認定	なし
留学費用	総額（2019年度参考）約33~79万円 <small>*実際の費用は、参加人数・航空費・為替レートなどにより異なります。</small>
助成金・補助金	大学からの助成金 【東アジア・東南アジア地域】 12万円（語学成績優秀者*は15万円） 【それ以外の地域】 17万円（語学成績優秀者*は25万円） 後援会助成金・同窓会補助金 3万円（語学成績優秀者*は4.5万円） <small>*出発前に定められた語学成績優秀者区分で助成金の支給決定を受けたもの</small>
説明会時期 【参加必須】	夏季プログラム：4月上旬（申請時期6月上旬） 春季プログラム：10月上旬（申請時期11月中旬）

パーペチュアル・ヘルプ大学 (UPH)



University of Perpetual Help System Dalta



フィリピン

パーペチュアル・ヘルプ大学ホームページ <https://perpetualdalta.edu.ph/>
UPH 日本事務所ホームページ <http://uph-global-academy.co.jp/index.html>

期間	春休み期間中の3週間（2月中旬~3月上旬）
滞在形態	ホテル
単位認定	あり（一定期間内に申請が必要。現地での成績評価による）
留学費用	総額（2019年度参考）約25万円 <small>*実際の費用は、参加人数・航空費・為替レートなどにより異なります。</small>
助成金・補助金	大学からの助成金 12万円（語学成績優秀者*は15万円） 後援会助成金・同窓会補助金 3万円（語学成績優秀者*は4.5万円） <small>*出発前に定められた語学成績優秀者区分で助成金の支給決定を受けたもの</small>
説明会時期 【参加必須】	10月上旬（申請時期10月下旬）

★受入機関・都市の概要

公用語が英語であるフィリピンは、教育が英語で実施されており、日常生活も英語ができれば不便さを感じることはありません。マニラ郊外にあるこの大学は、幼稚園から大学院まである南メトロマニラ最大規模の総合私立大学です。キャンパス入口ではセキュリティチェックがあるため、キャンパス内は安全が確保されています。また附属大学病院も隣接して安心です。周辺の住民は比較的富裕層であり、治安の良い地域です。

★留学概要について

高崎経済大学の学生のために作られた3週間のプログラムです。日本であるような先生の講義形式の授業はほとんどなく、主にアクティブ・ラーニングにより行われ、英語でのプレゼンテーション能力・コミュニケーション能力が強化される内容となっています。その他にも、チューターと呼ばれる現地学生との英会話プライベートレッスンやボランティア・市内観光などに参加することもできます。

留学先 フィリピン パーペチュアル・ヘルプ大学 (UPH)

2019年度
春季
留学時
2年生

経済学部
川井 柊哉



とある一日のスケジュール

- 6:30 起床
- 7:00 朝食
- 8:00 登校（ジブニー）
- 9:00 授業（PDRP*）
- 10:30 授業（コミュニケーションアーツ）
- 12:00 昼食
- 13:00 プライベートレッスン
- 14:30 自習
- 17:00 下校
- 18:00 夕食
- 19:00 自由時間
- 22:00 就寝

ちなさい、とよく先生に言われました。また、コミュニケーションアーツという授業では現地学生が先生となり、私達に英語の文法を教えてくださいました。TWICE 好きの先生、スキンケア系ユーチューバーの先生、いつもハイテンションな先生など。とても楽しい授業でした。

さらに現地大学に通う日本人学生の方にもお世話になりました。日本食のおすすめの店やタクシーの配車アプリの使い方などを教えてもらい、現地で快適に過ごすことができました。他にも、元チューターで日本語、タガログ語、英語と3か国語話せる方は、空港でターミナルの場所を教えてくださいました。このように現地の方々の優しさに何度も救われました。

最後にフィリピンに行ったことのない人に向けてフィリピンの良さを伝えたいと思います。フィリピンは最初にも述べたように危険な国だというイメージがあるかもしれませんが、そんなイメージは現地に行くとき吹き飛びます。確かに、ストリートチルドレンにお金をせがまれるなど、少し危険な場面もありましたが、マニラでは貧富の差が激しく、みんな生きるために必死でした。勉強を必死に頑張る姿は追いかける姿や、一生懸命働き、お金を稼いでいる姿はとても美しく刺激を受けました。自分も負けないと強く思いました。そういった努力している人々と友達になれたことは私の人生の宝であり、一生大切にしていきたいと思いました。

*PDRP: Personality Development and Public Relations



わたしの留学体験記

2019年度
夏季
留学時
2年生

留学先 マルタ共和国 指定旅行会社提案プログラム

経済学部
小島 菜月



今回の留学は、昔から英語が苦手だった私にとって一つの挑戦でした。今までは、英語にできるだけ関わらないようにしてきましたが、このままではいけないという思いが常に心のどこかにありました。そこで大学の夏休みを利用して思い切って留学してみよう決めました。実際に留学してみると、今まで英語から逃げてきた分、苦労したことは多くありましたが、留学する前と比べると英語に対する自分の意識を大きく変えることができました。

私が選んだ語学学校は主にスピーキングを重視するカリキュラムでした。入学して一週間はクラスメイトが話す英語も聞き取れず、また自分の意見を話すこともできなかったのが本当に苦しく、悔しい思いをしました。しかし、毎日家に帰って予習をしたり、翌日話したいことをあらかじめまとめておいたり、試行錯誤を繰り返すと次第に授業が楽になっていきました。最終週には、だいぶクラスメイトの話す内容は聞き取れるようになり、拙い英語でしたが自分の意見を述べることもできました。クラスメイトが私の意見を理解し、反応してくれたときは本当に嬉しく感動しました。

留学先にマルタという国を選んだ理由の一つに日本人が少ないということがありました。実際に行ってみると、日本人は少なく、留学先で日本語を話すことはほとんどありませんでした。はじめは普通の生活でも苦労しましたが、マルタの人々はとても親切で、わからなかったらわかりやすく言い換えてくれたり、すれ違うだけでも笑顔で挨拶してくれたり温かい国でした。

今回、留学をして英語の勉強に対する意識を大きく変えることができました。これまでは目標もなく、ただ漠然と英語の勉強をしていました。しかし、留学に行ってみると自分と年代ぐらいの人たちが流暢に英語を話す姿に圧倒されるとともに、自分の英語で話す力が不足していることを強く実感することができました。これからは海外で活かせる英語を意識して勉強していきたいです。そのためには、今回の留学で学んだスピーキングを、大学のEnglish Caféなどを利用して伸ばしていきたいです。行く前は不安ばかりでしたが、今は留学に行ったら良かったと胸を張って言えます。いろいろな経験をした留学でしたが、本当に良い経験をする事ができ、自分自身の成長を感じることができました。

